

## **全社協版 コロナ禍における福祉教育プログラム例**

全社協版『あなたのまちでやさしさをひろげるために～思いやり・つながり・支えあう～』ワークシートを活用した授業プログラム例を紹介します。このプログラム例を参考にして、各学校の状況や学習希望内容に応じて活用してください。

※全社協版ワークシートやプログラムはコロナ禍の福祉教育教材の一つの参考です。このワークシートやプログラム例を全国統一的に広げるものではありません。

### **授業のねらい**

コロナ禍において生徒たちを取り巻く環境は大きく変わっている。感染防止をすすめるなかで孤立化が進んでしまうこと、また過度な不安や防衛の意識が、排除や差別を生んでいることは見過ごすことができない。コロナ禍だからこそ、生徒たちが福祉教育を通して、自らの生活を含めた社会と向き合い、人権意識を高め、共生にむけた態度を、より主体的・対話的で深い学びによって形成する。

### **教材**

- ・日本赤十字社『新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう』
- ・全社協版『あなたのまちでやさしさをひろげるために～思いやり・つながり・支えあう～』ワークシート

### **対象**

- ・中学1年生

### **授業プログラム例**

下記の所要時数の違う5つのプログラム例を作成しています。コロナ禍の中で学校が確保できる授業時数等に応じて選択し、参考にしてください。

（なお、下記プログラムは日赤の「新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう！」の教材を学習後に、さらに福祉教育的視点で深めるプログラムになっています。）

A	1限（50分）プログラム	ワークシートを中心に行う
B	2限（100分）プログラム	ワークシートとゲストによる話題提供（つながる力）を行う
C	2限（100分）プログラム	ワークシートとゲストによる話題提供（支えあう力）を行う
D	2限（100分）プログラム	ワークシートを中心にハンセン病への差別の教訓を考える
E	5限（250分）プログラム	1つ1つの「顔」を詳しく取り上げる場合

※Eについては単元（5時限プログラム）のため、「単元計画（各授業の学習内容を示したもの）」と「本時の指導計画（5時限の中で、最も学びを深めたい授業の指導計画。本単元でいえば、3時限目にあたる。）」を作成している。

※いずれもスライド31～33は、事後学習として活用可能。

## A 1限(50分) プログラム ~ワークシートを中心に行う~

### 本授業のねらい

「新型コロナウイルスの3つの顔」として、それぞれ病気（医学的側面）・不安（心理的側面）・差別（社会的側面）について理解をしたうえで、本授業では、この3つの顔を「新しい顔」に変えていく、つまり「健康・安心・共生」に転換していくために必要な、「思いやり、つながり、支えあい」について、生徒自身の体験や考え方から洞察し、そのことを主体的に身につけていけるよう促したい。

柱	時間 (目安)	スライド	ねらい・内容	評価の視点
①導入	4分	1・2 3・4 5	・新型コロナの問題を自分にひきつけて考える ・「3つの顔」を復習する ・3つの顔を新しい顔にすることを理解する	「3つの顔」と負のスパイラルについて復習できたか。 本時のねらいを理解できたか。
②3つの新しい顔にするには 第1の顔「健康」	2分	6・7	・自ら感染対策がきちんと励行できているか、ふりかえる。	生徒自らが、日常の感染対策について振り返り、その必要を理解できたか。
③第2の顔「安心」になるために 思いやりの力を高める	13分	8・9 10	・自分ごととして想像する ・他者の気持ちを想像する ・自分のことだけではなく他者のことを思いやることを理解する	生徒自らが、他者について想像してみることができたか。そのことによって、立場をかえて推察してみることができたか。
④第3の顔「共生」になるために つながる力を高める	13分	11・12 15	・閉じこもってしまうのではなく、人とつながることの大切さを理解する	人とつながることについて具体的なイメージを持つことができたか。
⑤支えあう力をつけることで「健康」の顔がさらに元気になる	13分	16・17 22・23 24	・差別が育つスパイラルを理解する ・身近な差別を考える ・差別するのではなく、支えあうということを理解する	偏見、差別が起こってしまうプロセスが理解できたか。そのうえで、差別にならないように生徒が自らのこととしてとらえられたか。
⑥まとめ	5分	26～30	・新しい3つの顔に変えていくために3つの力を育むことを再度確認する	本時のねらいが理解できたか。またコロナ禍での過ごし方について態度を変容させてみようという意欲が生じたか。

## B 2限（100分）プログラム～ワークシートとゲストによる話題提供（つながる力）～

### 本授業のねらい

「新型コロナウィルスの3つの顔」として、それぞれ病気（医学的側面）・不安（心理的側面）・差別（社会的側面）について理解をしたうえで、本授業では、この3つの顔を「新しい顔」に変えていく、つまり「健康・安心・共生」に転換していくために必要な、「思いやり、つながり、支えあい」について、生徒自身の体験や考え方から洞察し、地域のゲストから実際の様子や気持ちを聞き取り、より関心を持ち共感を促し、地域にむけて主体的な行動につながるよう促したい。

### B 実際に地域で暮らしている人から話を聞く展開（つながる力）

柱	時間 (目安)	スライド	ねらい・内容	評価の視点
①導入	4分	1・2 3・4 5	・新型コロナの問題を自分にひきつけて考える ・「3つの顔」を復習する ・3つの顔を新しい顔にすることを理解する	「3つの顔」と負のスパイラルについて復習できたか。 本時のねらいを理解できたか。
②3つの新しい顔にするには 第1の顔「健康」	2分	6・7	自ら感染対策がきちんと励行できているか、ふりかえる。	生徒自らが、日常の感染対策について振り返り、その必要を理解できたか。
③第2の顔「安心」になるために 思いやりの力を高める	13分	8・9 10	・自己ごととして想像する ・他者の気持ちを想像する ・自分のことだけではなく他者のことを思いやることを理解する	生徒自らが、他者について想像してみることができたか。そのことによって、立場をかえて推察してみることができたか。
④第3の顔「共生」になるために つながる力を高める	13分 50分	11 12 13 14	・閉じこもってしまうのではなく、人とつながることの大切さを理解する ・Webオンライン、ビデオレターなどを活用し、実際に <u>地域の人</u> から話を聞く。	人とつながることについて具体的なイメージを持つことができたか。 現実に、地域で何が起こっているのか、ふだん報道されない現場の方の語りを受けとめられたか。そのことを通して考察ができたか。
⑤支えあう力を つけることで「健康」の顔がさらに元気になる	13分	16・17 22・2 324・26 27	・差別が育つスパイラルを理解する ・身近な差別を考える ・差別するのではなく、支えあうということを理解する	偏見、差別が起こってしまうプロセスが理解できたか。 そのうえで、差別にならないように生徒が自らのこととしてとらえられたか。

⑥まとめ	5分	28~30	・新しい3つの顔に変えていくために3つの力を育むことを再度確認する	本時のねらいが理解できたか。またコロナ禍での過ごし方について態度を変容させてみようという意欲が生じたか。
------	----	-------	-----------------------------------	--

**C 2限（100分）プログラム～ワークシートとゲストによる話題提供（支えあう力）～**

**本授業のねらい**

Bと同様

柱	時間 (目安)	スライド	ねらい・内容	評価の視点
①導入	4分	1・2 3・4 5	・新型コロナの問題を自分にひきつけて考える ・「3つの顔」を復習する ・3つの顔を新しい3つの顔にすることを理解する	「3つの顔」と負のスパイラルについて復習できたか。 本時のねらいを理解できたか。
②3つの新しい顔にするには 第1の顔「健康」	2分	6・7	自ら感染対策がきちんと励行できているか、ふりかえる。	生徒自らが、日常の感染対策について振り返り、その必要を理解できたか。
③第2の顔「安心」になるために思いやりの力を高める	13分	8・9 10	・自分ごととして想像する ・他者の気持ちを想像する ・自分のことだけではなく他者のことを思いやることを理解する	生徒自らが、他者について想像してみることができたか。そのことによって、立場をかえて推察してみることができたか。
④第3の顔「共生」になるためにつながる力を高める	13分	11 12 15	・閉じこもってしまうのではなく、人とつながることの大切さを理解する	人とつながることについて具体的なイメージを持つことができたか。
⑤支えあう力をつけることで「健康」の顔がさらに元気になる	13分	16・17 22・23 24	・差別が育つスパイラルを理解する ・身近な差別を考える ・差別するのではなく、支えあうということを理解する	嫌悪や偏見、差別が起こってしまうプロセスが理解できただか。そのうえで、差別にならないように生徒が自らのこととしてとらえられたか。
	50分	25	・Webオンライン、ビデオレターなどを活用し、実際に <u>医療や福祉の関係者</u> から話を聞く。	現実に、地域で何が起こっているのか、ふだん報道されない現場の方の語りを受けてみられたか。そのことを通して考察ができたか。
⑥まとめ	5分	26~30	・新しい3つの顔に変えていくために3つの力を育むことを再度確認する	本時のねらいが理解できたか。またコロナ禍での過ごし方について態度を変容させてみようという意欲が生じたか

## D 2限（100分）プログラム～ワークシートを中心にハンセン病への差別の教訓を考える～

### 本授業のねらい

「新型コロナウイルスの3つの顔」として、それぞれ病気（医学的側面）・不安（心理的側面）・差別（社会的側面）について理解をしたうえで、本授業では、「3つの顔」を「新しい顔」に変えていく、つまり「健康・安心・共生」に転換していくために必要な、「思いやり、つながり、支えあい」について、生徒自身の体験や考え方から洞察し、過去のハンセン病の歴史と差別の事実に学びながら、より関心を持ち共感を促し、地域にむけて主体的な行動につながるよう促したい。

### D ハンセン病へと展開

柱	時間 (目安)	スライド	ねらい・内容	評価の視点
①導入	4分	1・2 3・4 5	・新型コロナの問題を自分にひきつけて考える ・「3つの顔」を復習する ・3つの顔を新しい3つの顔にすることを理解する	「3つの顔」と負のスパイラルについて復習できたか。 本時のねらいを理解できたか。
②3つの新しい顔にするには 第1の顔「健康」	2分	6・7	自ら感染対策がきちんと励行できているか、ふりかえる。	生徒自らが、日常の感染対策について振り返り、その必要を理解できたか。
③第2の顔「安心」になるために 思いやりの力を高める	13分	8・9 10	・自分がとして想像する ・他者の気持ちを想像する ・自分のことだけではなく他者のことを思いやることを理解する	生徒自らが、他者について想像してみることができたか。そのことによって、立場をかえて推察してみることができたか。
④第3の顔「共生」になるために つながる力を高める	13分	11 12 15	・閉じこもってしまうのではなく、人とつながることの大切さを理解する	人とつながることについて具体的なイメージを持つことができたか。
⑤支えあう力を持つことで「健康」の顔がさらに元気になる	50分	16・17 18~21	・差別が育つスパイラルを理解する ・ハンセン病の問題の事実を知る。 ・当事者の手記から、自分のこととして考えてみる。	ハンセン病の歴史と、患者や家族への差別について知ることができたか。 手記から自分のこととして考えることができたか。
	13分	22~24 26	・身近な差別を考える ・差別するのではなく、支えあうということを理解する	偏見、差別が起こってしまうプロセスが理解できたか。そのうえで、差別にならないように生徒が自らのこととしてとらえられたか。

⑥まとめ	5分	27~30	・新しい3つの顔に変えていくために3つの力を育むことを再度確認する	本時のねらいが理解できたか。またコロナ禍での過ごし方について態度を変容させてみようという意欲が生じたか。
------	----	-------	-----------------------------------	--

## E 5限（250分）プログラム～1つ1つの「顔」を詳しく取り上げる場合

### 1 単元計画（指導計画：全5時限）

時限	活動名	学習内容	スライド
1	【導入】 新型コロナウイルスの「3つの顔」を知ろう	① 子ども自身がコロナによる生活の変化を振り返る（シート） ② 「3つの感染症のつながり」「3つの感染症を新しい顔に変えていこう」「3つの新しい顔の関係」のサイクルを知る ③ 単元のねらい（3つの感染症を新しい顔に変えるため、どんなことができるか）を理解する。 ④ 第1の顔「健康」について考える。	2 3～5 6 7
2	【展開①】 第2の顔「安心」になるために～思いやりの力を高める～	① 既習「3つのサイクル」を振り返り、本時の段階を確認する。 ② 自分が言われて嬉しい言葉、悲しい言葉を考える（シート） ③ 患者、家族、医療・福祉従事者の気持ちを考える（シート） ④ 大変な状況にある人の気持ちに重ねて「思いやり」の大切さを考え、本時の感想を書く。	3～5 9 10 8
3★ 本時	【展開②】 第3の顔「共生」になるために～つながる力を高める～	① 既習「3つのサイクル」を振り返り、本時の段階を確認する。 ② 自分が独りぼっちの場合どうするか考える（シート） ③ 見かけなくなった地域のおばあさんについて考える（シート）（原因⇒つながる工夫⇒その他地域で心配な人） ④ 地域の中でつながる工夫と効果を考え、伝え合う ⑤ 教師が「コロナ禍でもつながった人の手記」を紹介し、まとめと本時の感想を書く。	3～5 12 16 11
4	【展開③】 第1の顔「健康」をさらに元気にするために～支え合う力を高める～	① 既習「3つのサイクル」を振り返り、本時の段階を確認する。 ② 地域の「支えあう力」が人を元気にすることを知る。 ③ コロナ禍でも人とつながり元気になった当事者（障がい者、高齢者等）の話を聞く（オンライン使用：社協が調整） ④ まとめ・本時の感想を書く	3～5 22 25 27
5	【まとめ】 やさしさを広げていくために～差別の顔を見つめる	① 「負のスパイラル」の危険性を再確認する ② 老人ホームで働く父親をもつ子が友達に言われた一言について考える（偏見差別）（シート） ③ 小グループで考えを伝え合う（誰もが持つ差別につながる心に気付く）⇒全体発表 ④ 負のスパイラルを断ち切り、やさしさを広げる重要性を理解する ⑤ 自分ができるることを考え、感想を書く	16、17 23 26～29

## 2 本時の指導計画（50分：3／5時限目）

- ・活動名：「第3の顔「共生」になるために～つながる力を高める～」
- ・本時のめあて：コロナ禍だからこそ誰かとつながる意味を考え、共生の大切さに気付く。

	活動内容（・想定される生徒の反応）	◎留意点 ★評価	スライド
気付く	① 既習「3つのサイクル」を振り返り、本時の段階を確認する。	◎3つの感染症と新しい顔がどうつながっているのか意識させる。	3～5
深める	② 自分が独りぼっちの場合どうするか考えよう（シートによる個人作業⇒指名発表） <ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な誰かに相談する</li> </ul> ③ 見かけなくなった地域のおばあさんについて考えよう（シートによる個人作業⇒指名発表） <ul style="list-style-type: none"> <li>【原因】               <ul style="list-style-type: none"> <li>・人と会うのが怖い（感染）</li> <li>・心配してくれる人が身近にいない</li> </ul> </li> </ul>	★自分に重ねて具体的に考えている（シート） ◎教員が発表内容を模造紙にまとめていき、原因ウェビング図を作り視覚共有化する。 ★つながりたくてもつながれない人の立場を考えている（シート）	12 16
伝え合う	④ 【主発問】地域のおばあさんとつながる工夫とその効果を考え、伝え合おう <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) シートによる個人作業</li> <li>(2) 小グループでの伝え合い</li> <li>(3) 全体発表               <ul style="list-style-type: none"> <li>【工夫】                   <ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な高齢者に手紙を書く、オンラインを教える、役所に相談する</li> </ul> </li> <li>【効果】                   <ul style="list-style-type: none"> <li>・心が通じて安心する、もしもの時自分で助けられる、自分も元気になれる</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>⑤ その他地域で心配な人を皆で挙げる</li> </ul>	◎上記の原因を念頭に置いて、現実的かつ具体的に工夫が考えられるよう助言する。 ★積極的に伝え合い、友達の考えを認めようとしている（伝え合い活動）	16
まとめる	⑥教師が「コロナ禍でもつながった人の手記」を紹介し、本時の感想を書く <ul style="list-style-type: none"> <li>・つながりの大切さ</li> <li>・自分ができること</li> </ul> ※児童の感想の中で「支え合い」に言及する意見があったら紹介し、次時につなげる（教師から極力提示しない）	◎上記活動で考えた「効果」が「つながる意義」であることを押さえる。 ◎当事者の手記を紹介することで、自分たちの考えにリアリティを持たせ、「つながる」大切さを再確認させる。	11